

在宅生活改善調査集計結果(概要)

1 調査の目的・概要

(1) 目的

本調査は、現在自宅等で生活されている方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の人数や生活の改善のために必要なサービス等を把握することを目的とする。

(2) 調査方法

市内の居宅介護支援事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所に回答を依頼し、各事業所の介護支援専門員が担当する利用者の状況を調査した。

(3) 調査基準日

令和2年3月31日

(4) 調査期間

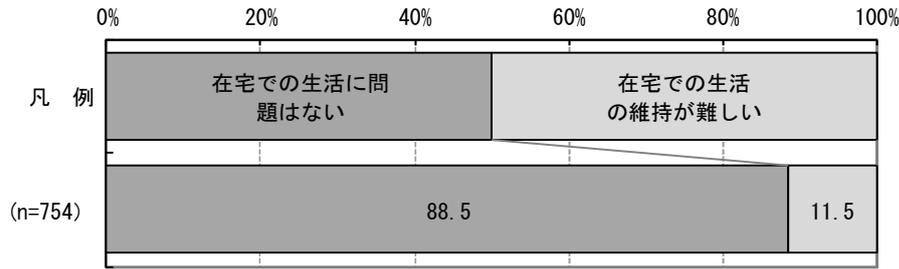
令和2年4月～5月

(5) 回収状況

調査対象	調査票発送 事業所数	回収事業所数 (回収率%)
市内の居宅介護支援事業所及び小規模 多機能型居宅介護事業所	11	11 (100%)

2 調査結果

(1) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数 → 87人(11.5%)

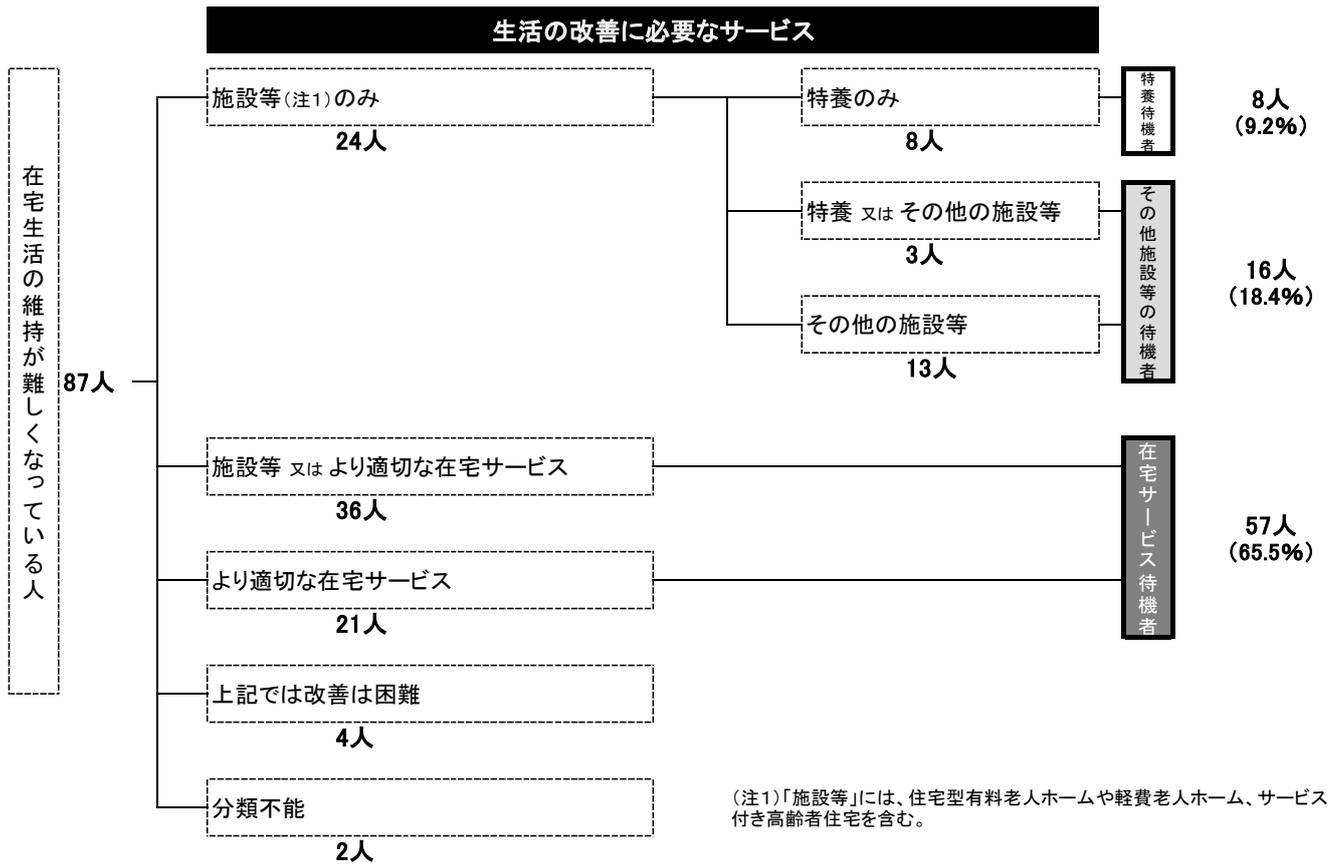
(2) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

順位	回答数	割合	世帯類型				要介護度	
			独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	要介護2以下	要介護3以上
1	24	27.6%	●				●	
2	13	14.9%		●			●	
3	10	11.5%	●					●
4	9	10.3%				●	●	
5	8	9.2%		●				●
6	8	9.2%			●		●	
7	8	9.2%				●		●
8	6	6.9%			●			●
上記以外	1	1.1%						
合計	87	100.0%						

(注) 要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を「上記以外」として集計しています。

独居や夫婦のみ世帯の占める割合が大きい → 独居や夫婦のみ世帯は在宅限界が低い

(3)「現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっている人」の状況を改善するために必要なサービス



(4)「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービスの内訳(複数回答)

		その他の施設等の待機者(16人)		在宅サービス待機者(57人)	
施設等	特別養護老人ホーム	3人	18.8%	特別養護老人ホーム	15人 26.3%
	介護老人保健施設	2人	12.5%	介護老人保健施設	2人 3.5%
	療養型・介護医療院	0人	0.0%	療養型・介護医療院	0人 0.0%
	特定施設	0人	0.0%	特定施設	0人 0.0%
	グループホーム	10人	62.5%	グループホーム	15人 26.3%
	住宅型有料老人ホーム	5人	31.3%	住宅型有料老人ホーム	3人 5.3%
	サービス付き高齢者住宅	3人	18.8%	サービス付き高齢者住宅	2人 3.5%
	軽費老人ホーム	3人	18.8%	軽費老人ホーム	6人 10.5%
	在宅サービス	—	—	—	ショートステイ
市内グループホームの定員:45人(9人×5施設) ↓ 本市の1月当たりの利用者数は約40人で、 他市の利用者もいることを考慮すると、 稼働率はほぼ100% ↓ 現在の定員45人では、待機者10人の受入れ は困難。				訪問介護、訪問入浴	20人 35.1%
				夜間対応型訪問介護	4人 7.0%
				訪問看護	15人 26.3%
				訪問リハ	4人 7.0%
				通所介護、通所リハ、 認知症対応型通所介護	18人 31.6%
				定期巡回サービス	22人 38.6%
				小規模多機能	18人 31.6%
				看護小規模多機能	5人 8.8%

生活の改善に向けて、代替が可能